

# 戸隠善光寺往来

十返舎一九著。文政五（1822年）刊。

やつがれそれよりとがくし さんけい しぐわん あらまちむ れい い かしはばらよりすぐみち  
僕自後戸隠へ参詣之志願候而荒町牟礼井を打過従柏原直道  
ほくこくかいだう とがくしさん みちやうやくつゑをすゝめとうざんせしめくはうぜん ぬかづきたてまつり  
は北国街道左之方戸隠山之道漸投杖令登山廣前二奉額突  
さうおう たづね とがくしみやうじん たちからをのみことい せ ないくうあい でん  
掃翁二相尋候へは戸隠明神は手力雄命伊勢内宮相殿之左二  
まつり むかしあまのいわと おしひらきたま そのいわとをなげうちこのところ おち  
も祭有之昔天磐戸を押開給ひし時抛其磐戸此所二落たり  
いふく づりやうごんげん つたへいふしんぎやうきうづ がんくつ ちんざあり  
と云九頭龍権現ハ傳曰神形九頭ニ而岩窟之中ニ鎮座有  
なしをもつてじんぐとすゆへ むしばをうれふるものなしをたちしんぐはんこんき  
以梨為神供故二世俗患蟲菌者断梨心願懇祈すれば平愈  
うたがひなし つたへ すなはちとうざん ちしゆのかみ じんひ の よしうけたまはり  
無疑と申傳候是則當山地主神ニ而神秘之由承 候右記行  
おもむきかくのしとく ふ ぐ  
之趣如斯候不具

十返舎一九著

青洲三武敬書

註 早稲田大学蔵書目録から「戸隠善光寺往来」で検

索。画像11コマ、12コマ、13コマ目。